

国際武道大学アセスメントポリシー2. アセスメントの実施方法

アセスメントチェックリスト

番号	名称	実施頻度	対象	評価項目 (対応目標含む)	評価手法	評価者	実施責任者	結果の活用方法等
①	選抜機能評価	年1回	全学年	各種入学試験とその後のGPA/単位修得状況/留年・中退状況との関係	基幹システムのデータを元に作成	入試・広報室	入試・広報センター長	入試種別ごとに、同じ評価項目でも比率が大きく異なる場合は、実施責任者が内部質保証検討委員会へ報告する。
②	入学時基礎学力テスト (IBU アドバメントテスト)	年1回	1年生	英語、数学、国語に関する知識	ペーパーテスト	学部・学科	学部長	①加付が前提としている知識を、修得していない学生が多くみられる入試種別がある場合には、実施責任者が内部質保証検討委員会へ報告する。 ②加付が前提としている知識を、修得していない学生については、クラス担任と情報共有を行う。
③	シラバスの第三者チェック	年1回	当該年度の全ての開講科目のシラバス	①加付レベル：DPと各科目の内容/順序/レベルの整合性 ②授業レベル：到達目標/授業手法/評価方法の整合性	評価者が対象シラバスの情報を読むことで点検	学生支援センター	学生支援センター長	不適切な項目がある場合は実施責任者が、各科目担当者に修正依頼を行う。 実施責任者は修正を依頼した状況等を内部質保証検討委員会へ報告する。 (修正結果の適切性も確認する)
④	IBU キャンパスライフアンケート	年1回	全学年	加付の想定している学修生活となっているか(学修時間)、施設面の課題がないかなど	アンケート調査	学生	学生支援センター長	想定していない学修行動となっている場合には、実施責任者は内部質保証検討委員会へ報告を行う。
⑤	授業評価アンケート	半期毎	全学年	育成を目指すシグニフィカンスに合った授業方法が採用されているか(もしくはシグニフィカンスの内いづれの力が身についたと感じるか)、授業で興味が喚起されたか、活用場面がイメージできるかなど	アンケート調査	学生	FD 部会長	①集計結果は全体平均と合わせて、担当教員にフィードバックを行い、全ての教員が教員同士の作成を行う。 ②平均より著しく低い評価項目のある科目は、科目担当者に改善を促す。 ③シグニフィカンスの伸長に繋がっている状況を、加付の想定と比較し、良い結果に繋がっている科目担当者の工夫をFDを通じて他の教員にも共有する。 実施責任者は①～③を内部質保証検討委員会へ報告する。

⑥ ①	ジエリックス	年1回	全学年	DPから抽出されたジエリックス	学修達成度自己評価システム及び、基幹システムのデータを元に作成	学生他	学生支援センター長	①学生レベル：学生は、ジエリックスの自己評価を行う。 ②授業・カリキュラムレベル：当該科目の成績分布を参照する。 ③外部評価（企業等）これらを総合的に参照・分析しジエリックスに関して検証する。 実施責任者は①～③を内部質保証検討委員会へ報告する。
⑥ ②	専門性	半期毎	全学年	各科目の到達目標	学修達成度自己評価システム及び、基幹システムのデータを元に作成	学生他	学生支援センター長	①学生レベル：学生は、教員による成績評価結果と自己評価結果を併せて参照し、目標と振り返りの記載を行う。 ②授業・カリキュラムレベル：教員は、学生の自己評価結果、授業アンケート結果、当該科目の自身の成績評価結果を併せて参照し、教員コメントの作成を行う。 ③map分析結果 これらを総合的に参照・分析し専門性に関して検証する。 実施責任者は①～③を内部質保証検討委員会へ報告する。
⑦	成績評価	半期毎	受講生があり、当該学期に終了する全ての科目	当該科目のシラバスに記載された評価項目	当該科目のシラバスに記載された評価手法	各科目担当教員	学生支援センター長	「⑥-2 専門性」に同じ
⑧	企業等アンケート	1～2年に1回	当該期間に採用実績が1名以上ある30社以上	①採用学生に対するディプロマポリシーに基づく評価 ②ディプロマポリシーで示した資質能力の適切性	アンケート調査	調査対象企業	学生支援センター長	①進路先による評価と、学内評価に乖離がある場合は、実施責任者が内部質保証検討委員会へ報告を行う。 ②ディプロマポリシーで示した資質能力と必要とされる力に乖離がある場合は、実施責任者が内部質保証検討委員会へ報告を行う。

⑨	卒業後アンケート	年に1回	卒業後3年経過する学生	ディプロマポリシー (就職してから必要とされたディプロマポリシーに含まれるか、含まれないか)	アンケート調査	調査対象の卒業生	学生支援センター長	ディプロマポリシーで示した資質能力の内、就職してからあまり必要とされていないかや、ディプロマポリシーに含まれていないが必要となる力がある場合には、実施責任者が内部質保証検討委員会へ報告を行う。
⑩	3つのポリシーの整合性点検	年1回	全学年	卒業率/就職率/進学率/留年率/退学率等	基幹システムから取得	学生支援センター	学生支援センター長	各指標を学年学科別の半期ごとの推移データとして比較を行い、継続的に向上が図れるよう実施責任者が内部質保証検討委員会へ報告を行う。
⑪	卒業時アンケート	年1回	卒業生	①カリキュラム・学修支援体制 ②学修成果に対する満足度	アンケート調査	調査対象の卒業生	FD部会長	各指標を学科別に年度推移データとして比較を行い、継続的に向上が図れるよう実施責任者が内部質保証検討委員会へ報告を行う。
⑫	地元自治体または産業界へのインタビュー調査	2~3年に1回	自治体・商工会議所会員企業など	3つのポリシーに基づき設計されたカリキュラム/学修成果/ディプロマポリシーで示した資質能力/3つのポリシーの整合性	インタビュー調査	調査対象の企業	大学自己点検・評価部会長	インタビューにより取得した声を取りまとめ、必要に応じて実施責任者が内部質保証検討委員会へ報告を行う。

(注：大学院は研究科長又は大学院研究科委員会が、必要に応じて上記項目のうちからアセスメントを実施する)

以上